経皮的腹膜透析カテーテル留置術についての検討

本調査研究の概要を以下に示します。【対象】に該当すると思われる方で、本調査研究に関するお問い合わせや調査の対象となることを希望されない場合は、担当医にお申し出ください。

【本調査研究の目的】
腹膜透析を開始するにあたり、 腹膜透析カテーテルを留置する必要があります。当院では、2018 年 8 月以前は小開腹(peritoneal incision;PI)による術式を施行しており、2018 年 9 月から経皮的腹膜透析カテーテル留置術(Percutaneous Peritoneal dialysis Access Procedure ; PPAP)を施行し始めました。PI によるカテーテル留置術についての報告は多く存在しますが、穿刺による PPAP についての報告はまだ十分ではありません。そのため PPAP を施行した患者さんについて術中・早期合併症も含めて、後ろ向きにデータを収集し、有効性・安全性を検討します。

【対象】
2015 年 1 月～2022 年 12 月までの期間で慢性腎不全に対して腹膜透析カテーテル留置術を施行した PI 群 31 症例、PPAP 群 36 症例、合計 67 症例を対象とします。

【情報の利用目的及び利用方法】
電子カルテにて調査しデータを収集します。

【調査項目】
患者性別・年齢、慢性腎臓病原疾患、腹部手術歴、血清 Cr 値、eGFR 値、手術時間、術中出血量、術中合併症（腸管穿孔など)、入院期間、術後腹膜透析カテーテル使用の可否、早期合併症（カテーテル位置異常、カテーテル感染、出口部感染、トンネル感染、透析液の液漏れ)

なお、必要な情報のみを統計資料として集計しますので、患者さんのお名前など個人を特定できる情報が明らかになることはありませんので、ご安心ください。

【調査対象期間】
2015 年 1 月 1 日から 2022 年 12 月 31 日

【利用する者の範囲】
関西労災病院　腎臓内科　大田南欧美

【試料・情報の管理について責任を有する者】
関西労災病院　腎臓内科　大田南欧美

【研究期間】
実施許可日から 2023 年 12 月 31 日（調査状況により調査期間を延長する可能性があります）

【研究機関・組織】
関西労災病院　腎臓内科

【研究代表者】【研究事務局】【当院の研究責任者】
大田　南欧美
関西労災病院　腎臓内科
〒660-8511　兵庫県尼崎市稲葉荘 3-1-69
TEL: 06-6416-1221（代表）
FAX: 06-6419-1870（代表）
E-mail： miracle_naomi_6v6@yahoo.ne.jp